

## 空中磁気探査による雲仙岳の磁化構造解析 Analysis of the magnetization intensity in Mt. Unzen using an air-borne magnetic survey data

結城 洋一<sup>1\*</sup>, 黒木 瑞昭<sup>1</sup>, 中山 英二<sup>1</sup>  
Youichi Yuuki<sup>1\*</sup>, Mizuaki Kuroki<sup>1</sup>, Eiji Nakayama<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 応用地質株式会社  
<sup>1</sup> OYO Corporation

国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所が発注した「平成24年度空中物理探査解析外業務」において、今後の防災対策の基礎資料とするために、雲仙岳溶岩ドーム及びその周辺の空中物理探査及び解析、航空レーザ測量を実施した。

空中物理探査は空中電磁探査、空中磁気探査を実施したが、空中磁気探査結果について三次元インバージョン解析を行い、地表から深度1000m程度までの磁化構造を求めた。また、1999年に長崎県島原振興局が実施した空中磁気探査結果との変化を見るために磁気異常の差分を求めた。さらに、差分結果に対して三次元インバージョンを行い、地下の磁化構造の変化を三次元的に捉えた。

本発表では、2時期に実施した空中磁気探査結果から求めた磁化構造の変化から、雲仙岳の地表面及び深部の地下構造を推定した結果を発表する。

キーワード: 空中磁気探査, 空中物理探査, 三次元インバージョン, 雲仙岳, 溶岩ドーム, 斜面崩壊

Keywords: Airborne magnetic survey, Airborne geophysics, Three-dimensional inversion, Mt. Unzen, Lava dome, slope failure